

海外市場開拓セミナー 実践講座 <9>

■テーマ■「中国語の学び方」を学ぶセミナー

- 1) 中国語学習で初級学習者が注意すべき3つのポイント
- 2) これから中国語を始める方へ4つのアドバイス
- 3) 日本人が躓きやすいポイントを整理して先回り解説



■講座/セミナーの狙い

- ・中国語学習で「日本人が躓きやすいポイント」にスポットを当てて紹介する、初級学習者の心理的な負担を軽くすることが目的
- ・初級学習者が注意すべきポイントを整理し、そのポイントをどう克服したらいいか、「中国語の学び方」をアドバイスする
- ・「隙間時間」の有効活用方法など会話力アップのための勉強法や「教師」の選び方/「教材」の選び方などをアドバイスする

■主な対象者(ぜひご参加いただきたい方々)

- ・これから中国語学習に取り組みたいと思っている人、すでに中国語学習に取り組んでいる初級学習者、再チャレンジしたい人
- ・どうやって中国語を学んだらいいかを知りたい人、中国語学習に興味を持っている人、簡単な中国語が話せるようになりたい人
- ・赴任予定者及び赴任候補者、これから語学研修を受ける人、中国語を学び始めたが「壁」にぶつかっている人

■この講座/セミナーで伝えたいポイント

- ・中国語の初級には3つの大きな「壁」がある。第一に「四声」の壁、第二に「発音」の壁、第三に「拼音」の壁という大きなハードル
 - ・3つの「壁」を克服するには「短期集中」で中国語を学ぶことが大切、3つの「壁」を一気に越えていく克服法をアドバイス
 - ・会話力の上達には「耳」のトレーニングが不可欠、同時通訳者養成のメソッド「シャドーイング」を取り入れ隙間時間を徹底活用する
- ※このセミナーは中国語レッスンのセミナーではありません。「中国語の学び方」を学ぶためのセミナーです。発音や四声の練習はありません。予め承ください。

<内 容>

■9 ■「中国語の学び方」を学ぶセミナー	各セッションで取り上げるポイント/理解項目
1) 中国語学習で初級学習者が注意すべき3つのポイント 1-1 「四声」の壁、「発音」の壁、「拼音」の壁(3つの「壁」) 1-2 初級の克服には「短期集中」/「短期決戦」で臨む 1-3 会話力の上達曲線「良い事例」と「悪い事例」を比較 1-4 中国語をどう学んだらいいか、「目標設定」と「学習方法」	・3つの「壁」を短期時間で乗り越えるためのアドバイス、克服のためのヒント ・なぜ中国語の学習では初級段階を「短期集中」で学ぶことが重要なのか ・「北京語」を学べば中国全土で通じるか? 「地方方言」と「地域訛り」の違い ・10日間で学ばべきこと、1か月以内に学ぶこと、3か月かけて学ばべきこと ・「出口が見えないトンネル」に迷い込まない、先に知っておくべき克服ポイント
2) これから中国語を始める方へ4つのアドバイス 2-1 中国語の「教師」の探し方、よい「教師」とは… 2-2 中国語の「教材」の選び方、よい「教材」とは… 2-3 学びたい「言葉」を探す、学びたい「フレーズ」を探す 2-4 「隙間時間」を徹底的に活用、「耳」のトレーニング	・中国語は中国人教師に教わるべきか? ネイティブ教師がいい教師か? ・「会話教材」を選ぶときの注意点、「文法解説書」「語彙集」を選ぶときの注意点 ・どんな場面でどんな言葉を使うか、仕事の現場に即した言葉を優先的に学ぶ ・「まずは1分間の時間の作り方と使い方、「次は5分」のトレーニング時間 ・DMP/ICレコーダーを徹底活用、「隙間時間」の作り方と使い方(※シャドーイング)
3) 日本人が躓きやすいポイントを整理して先回り解説 3-1 「四声」は指差し法で、3声+2声を徹底的にトレーニング 3-2 日本人が苦手な発音、2つの母音 有気音と巻舌音 3-3 「拼音」の書き取り、小さな努力が会話力の大きな飛躍に 3-4 ボキャブラリーの増やし方、語彙力を強化する練習法	・日本語にはない「母音」の克服方法、「四声」を克服のコツ「指差し法」とは? ・3声+2声の組み合わせを重点克服することが「四声」の壁を越えるポイント ・飛躍的会話上達のために「拼音」貯金をコツコツと、努力を惜しまず徹底練習 ・微妙に違う日本語の漢字と中国語の簡体字、「比較一覧表」で一気にも克服 ・目標 200語/400語/600語、「コップから水が溢れ出す瞬間を目指せ」

◆実践講座はそれぞれ独立して実施することが前提です。他の講座との組み合わせも可能です。◆展示会出展企業向けには実習として「商談記録シートの作成」◆通訳を使いこなす講座には実習として「通訳を活用した自己紹介シミュレーション」◆中国語の学び方を学ぶ講座には実習として「中国語で自分の名前を自己紹介」、以上それぞれ実習が含まれています。(実習は時間配分の関係で実施するかどうか選択が可能です)◆現場での経験をとにした実践的なワークショップを中心に進める講座。

